

地域で備える

ご近所の助け合いが大切

阪神・淡路大震災で、家の下敷きになった人の多くを助け出したのは、家族や近所の人たちでした。大災害が発生した時には、都道府県や市区町村、消防、警察などの防災関係機関の対応が追い付かない場合も予想されます。

いつどんな時に、助ける側、助けられる側になるかわかりません。ふだんから近所つきあいを大切にすることが地域防災力の向上につながります。

最近、防災訓練に参加しましたか？

近年は、防災訓練も工夫がされていて、いざという時に訓練したことが本当に役立つよう、参加型の訓練が増加しています。町内会や自治会が中心となって開催する防災行事に積極的に参加して、避難や安否確認、救出・救護、炊き出しや避難訓練、避難所生活などを体験してみましょう。

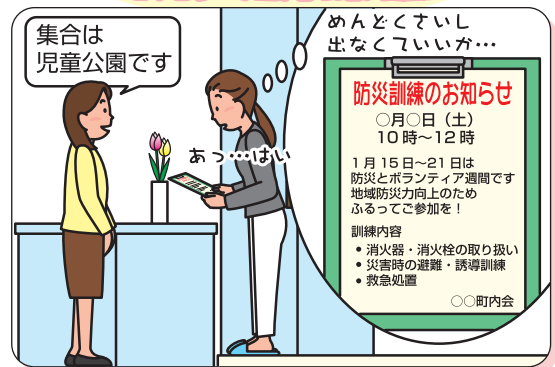
得意分野を生かして

自治体や自治会・町内会、学校、企業、ボランティア団体など、地域のさまざまな組織・団体が連携する体制を作り、維持することで、その地域の防災力は向上します。

ご近所に、災害の時に協力しあえたらいいなという団体があったら、積極的にコミュニケーションを図りましょう。

また、おまつりなどの参加した人が楽しめるイベントに、防災教育の紙芝居やゲーム、炊き出しなどを組み入れるのも、防災の輪を広げるポイントです。

減災マンガ 防災訓練編



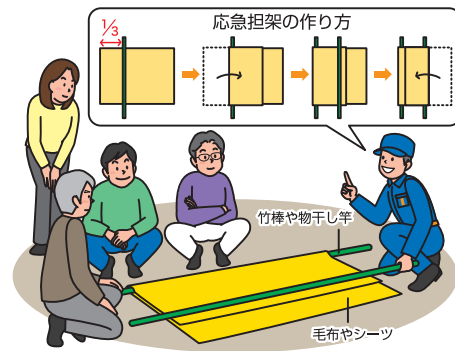
連携先にはどんなところがあるか、考えてみましょう

- 救護に使えるボールやジャッキを持っているところといえば？
- 地域のお年寄りの情報に詳しい人は？
- 資材置き場として場所が必要になったら？

参加型の防災訓練をやってみましょう!



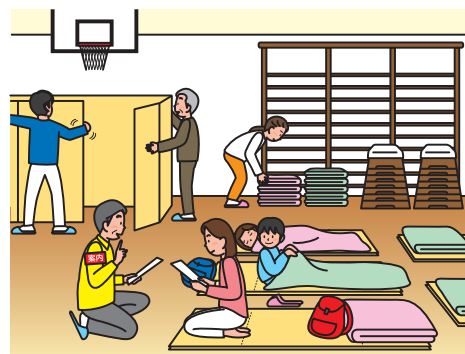
みんなで歩いて避難訓練



身近なものを使って救護訓練



ご近所で楽しく炊き出し



体験してみる避難所生活

一人で避難ができない人がいないか、みんなで声をかけ合いましょう!

一般的に高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊婦等、災害に際して、必要な情報を得て、自らの安全を守るために避難するなどの災害時の一連の行動をとるのに手助けが必要な方の事を、災害時要援護者と呼びます。

被害を減らすためには、災害時要援護者の方と地域の方との協力が不可欠です。

自分が災害時に助けを必要とするとわかっている場合は、日ごろからできる限り防災訓練などに参加して、どんな助けが必要なのかを地域の方に伝えておきましょう。

また、災害が発生した際に自分が無事であれば、ご近所に進んで声をかけるようにし、地域に住む災害時要援護者の方はもちろん、何か助けを必要としている人はいないか確認しましょう。

覚えておきたい手話

<p>助けて</p> <p>片方の手の親指を立てて握る</p> <p>もう片方の手のひらで自分の方へ引き寄せるように二回叩く</p> <p>ください</p> <p>手を顔の前に立て(拝むように)下へおろす</p>	<p>痛い</p> <p>5本の指を曲げた手を左右に動かす。頭の近く…頭痛 お腹の近く…腹痛</p>	<p>わからない時には書いてもらいましょう</p> <p>書いて</p> <p>親指と人差し指をつけて書く仕草をする</p> <p>ください</p> <p>手を顔の前に立て(拝むように)下へおろす</p>
--	---	---